

ヒサカキの雌株には両性花類似の花ができるものがある

著者	古池 博
著者別表示	Furuike Hiroshi
雑誌名	植物地理・分類研究
巻	37
号	1
ページ	67-68
発行年	1989-06-25
URL	http://doi.org/10.24517/00055994



イシガキヒヨドリと亜種関係にある鳥で、オヒルギ林内では常にさえずりが聞かれたが、吸蜜の様子を観察できたのは、8月8日の1回のみであった。そのさいホバーリングしながらの吸蜜も観察された。

この2種の鳥の行動は仔細には観察できなかったが、吸蜜にさいし雄蕊を弾発させ、少なくとも頭部は柱頭に触れるものと思われる。

ヨウシュミツバチ (*Apis mellifera*) ……垂下している花にもぐり込むようにして吸蜜し、葯や柱頭に触れ、花粉の媒介をすることを考えられる。しかし、本種とオヒルギの花との出会いは人為的なものであり、本来の種間関係を示すものではない。

オキナワクマバチ (*X. fravifrons*) ……メヒルギと隣接していたオヒルギの花を訪れたものである。行動はヨウシュミツバチに似ており、同様に花粉の媒介をするものと思われる。しかし調査地内の他のオヒルギ上では観察されず、オヒルギに対しては一時的な訪花行動であったと考えられる。

オキナワクロホウジャク (*Macroglossum corythus platyaxanthum*) ……体長 35 mm, 口吻長 26 mm のがで、ホバーリングしながら花の斜め下から、口吻を差しこみ吸蜜していた。花間を敏速にしかも長距離移動するが、口吻の刺激では花粉の弾発はおこらず、また口吻が柱頭に接する率も低いようである。したがって本種は効率のよい送粉者とはみなせず、むしろ盗蜜者であると言える。

メヒルギの送粉者として田中・中越 (1986) の沖繩本島での調査により、ヒメハラナガツチバチが主要な種であるとされた。それは、はからずも 1986 年 TOMLINSON が推定した送粉者、すなわち適切な大きさの狩バチやハエなどいわゆる日和見的な昆虫、の範疇に入るものであった。さらに今回、メヒルギの送粉者としてハナバチの一種であるオキナワクマバチが加えられ、メヒルギの花にとって適切な大きさの昆虫とは大型の膜翅目昆虫であることが明らかとなった。

オヒルギの花は赤色の萼をもち、多量の蜜を貯え

る一方で、昆虫のための足場がないなど、鳥媒花としての特徴 (FAEGRI and PIJL, 1971) を多く備えており、さらに訪花動物の吸蜜行動や移動性などを総合的に評価すると、昆虫による補助的な送粉も有るものの、KONDO *et al.* (1985) や TOMLINSON (1986) が指摘したように鳥媒花であると結論できる。そして送粉者は、東アフリカやサラワクなどではタイヨウチョウ、クイーンズランドではミツクイであるといわれ (TOMLINSON, 1986)、日本の南西諸島においては、種としてのメジロやヒヨドリである。

本調査にあたってご指導いただき、本報の校閲をたまわった広島大学総合科学部の中越信和博士ならびに京都大学理学部の河野昭一教授、オキナワクマバチの同定をたまわった九州大学農学部平嶋義宏教授、鳥類に関しご教示たまわった麻布獣医科大学の宇田川龍男教授に深甚なる感謝の意を表す。なお、本調査は教育社の出版企画の資料収集の一端としてなされたものである。

引用文献

- FAEGRI, K. and L. van der PIJL. 1971. *The Principles of Pollination Ecology*, 2nd revised ed. Pergamon Press, London.
- KONDO, K., T. NAKAMURA, K. TSURUDA, N. SAITO and YAGUCHI, Y. 1985. Pollination ecology in *Bruguiera gymnorrhiza* and *Rhizophora mucronata* in Ishigaki Island, the Ryukyu Islands, in autumn-winter. *In*: *Studies on the Mangrove Ecosystem*, 139-146. Tokyo Univ. of Agriculture, Tokyo.
- 田中 馨・中越信和, 1986. メヒルギの受粉様式, 日本花粉学会誌 32: 7-12.
- TOMLINSON, P.B. 1986. *The Botany of Mangroves*, 131-139. Cambridge Univ. Press, Cambridge.

(Received Nov. 29, 1988)

○ ヒサカキの雌株には両性花類似の花ができるものがある (古池 博) Hiroshi FURUIKE: *Hermaprodite-like flowers on the female plants of Eurya japonica* THUNB.

金沢市周辺にはヒサカキが多く発生するが、通常は雌雄異株が明確で、かつ完全な単性花である。ところが最近、庭木の雌株に雌花の他に両性花類似の花を着けているものを見つけた。念のため、今春金沢市郊外の3地点・3集団・約60株を調査したところ同様のものが1株見つかり野生集団にも実在することが確かめられた。この花は雌株だけに見られ、開花中の単性花の雌花が細長いのにたいして、雄花と同様に幅が広くかつ大きく、外見は雄花と区別できないが、解剖すると完全な雌しべが雄しべ群に囲まれていることが確かめられる。しかし、花冠が脱落した後は通常の雌花と同様に柱頭が閉鎖されたがくの中央部より突き出した状態になるので、

こんどは雌花との区別が困難になる。この件につき、読者各位の御存じの事例を御教示下さるようお願いする。

36巻会計報告 (1988年1月1日~1988年12月31日)

収入 (A)	2,880,432円	支出 (B)	1,591,775円
会費	1,451,000	印刷費	1,334,500
バックナンバー	127,150	送料及び通信費	133,730
書籍売上	55,350	編集会議費	62,000
別刷代金	354,815	事務費	7,000
超過ページ組賃	240,000	英文校閲謝金	23,890
カラー図版代金	150,000	雑支出	30,655
英文校閲料	34,250		
利息	827		
雑収入	48,800		
前年度繰越金	418,240		

差引 (A-B) 1,288,657円 (次年度へ繰り越し)

住所変更および訂正 (1988年11月~1989年4月)

尾川原正司	〒612 京都市伏見区深草谷口町70-23→〒907 沖縄県石垣市石垣161-1 プエノアパート宮良305
鴻上 泰	〒782 香美郡土佐山田町1682 県住山田団地R7-12→〒780 高知市五台山3579-2 牧野植物園内
鈴木 善雄	〒162 新宿区新宿1-25-1-101→〒206 多摩市聖ヶ丘3-52-2-101
西川 恒彦	〒060 札幌市北区北10条西5丁目 北海道大学大学院環境科学研究科生態系→〒070 旭川市北門町9丁目 北海道教育大学
堀田 満	〒569 高槻市日吉台5-12-4→〒890 鹿児島市郡元1-21-35 鹿児島大学理学部生物
美馬 秀夫	〒920 金沢市城南2-5-26→〒920 金沢市涌波4-11-42
元吉 健一	〒120 足立区千住4-16-19→〒272-02 市川市香取1-3-8 香取ハイソ102号
能城 修一	〒558 大阪市住吉区杉本3-3-138 大阪市立大学理学部→〒305 筑波農林研究団地内郵便局私書箱第16号 農林水産省森林総合研究所木材利用部組織研究室

新入会員 (1988年11月~1989年3月)

11月1日	金 文洪	〒183 東京都府中市幸町3-5-8 東京農工大・農・植生管理学研究室
11月15日	杉江 良治	〒923-32 石川県能美郡辰口町字緑が浜10-158
11月26日	松尾 和人	〒060 札幌市北区北10条西5丁目 北海道大学・環境科学
12月6日	坪井 嘉雄	〒430 浜松市住吉3-7-23
12月26日	天野 誠	〒113 文京区本郷7-3-1 東京大学・総合研究資料館植物研究部
12月27日	小林 禧樹	〒673 明石市大蔵谷清水583-36

退会会員 (1988年11月~1989年3月)

相場 清一	〒989-02 白石市白石沖27-2
熊木 義房	〒921 金沢市弥生1-24-12
小牧 旌	〒926 七尾市小島町1丁目
塩井 俊宏	〒920 金沢市菊川2-9-24
山内 好孝	〒239 横須賀市馬堀海岸4-1-309

正 誤

Vol. XXXVI. No. 1, p.12 Fig. 4 の倍率 A, B とも $\times 9 \rightarrow \times 6.3$